

2021年5月14日

株式会社ファイバーゲート

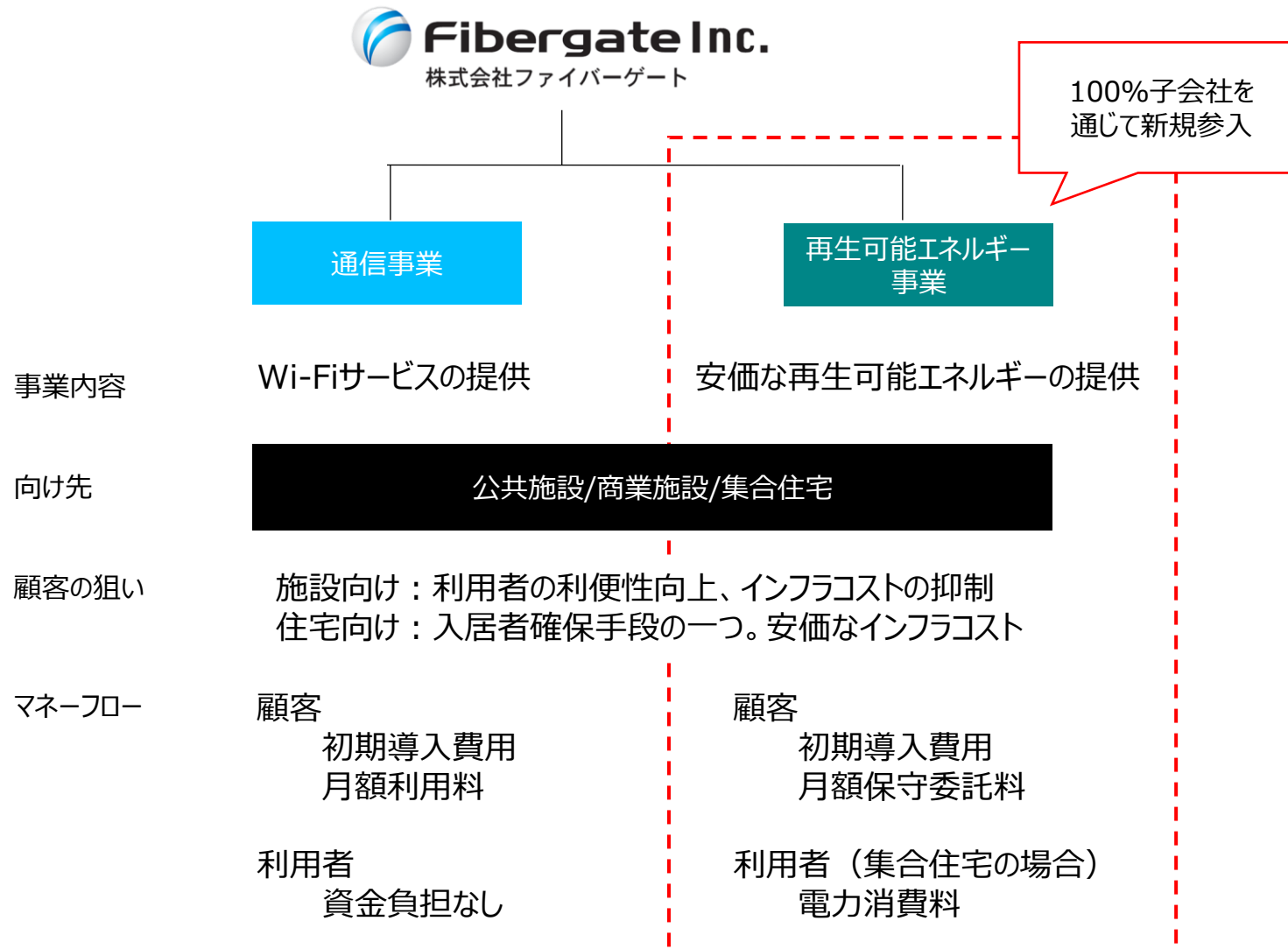
2021年6月期第3四半期決算別添資料

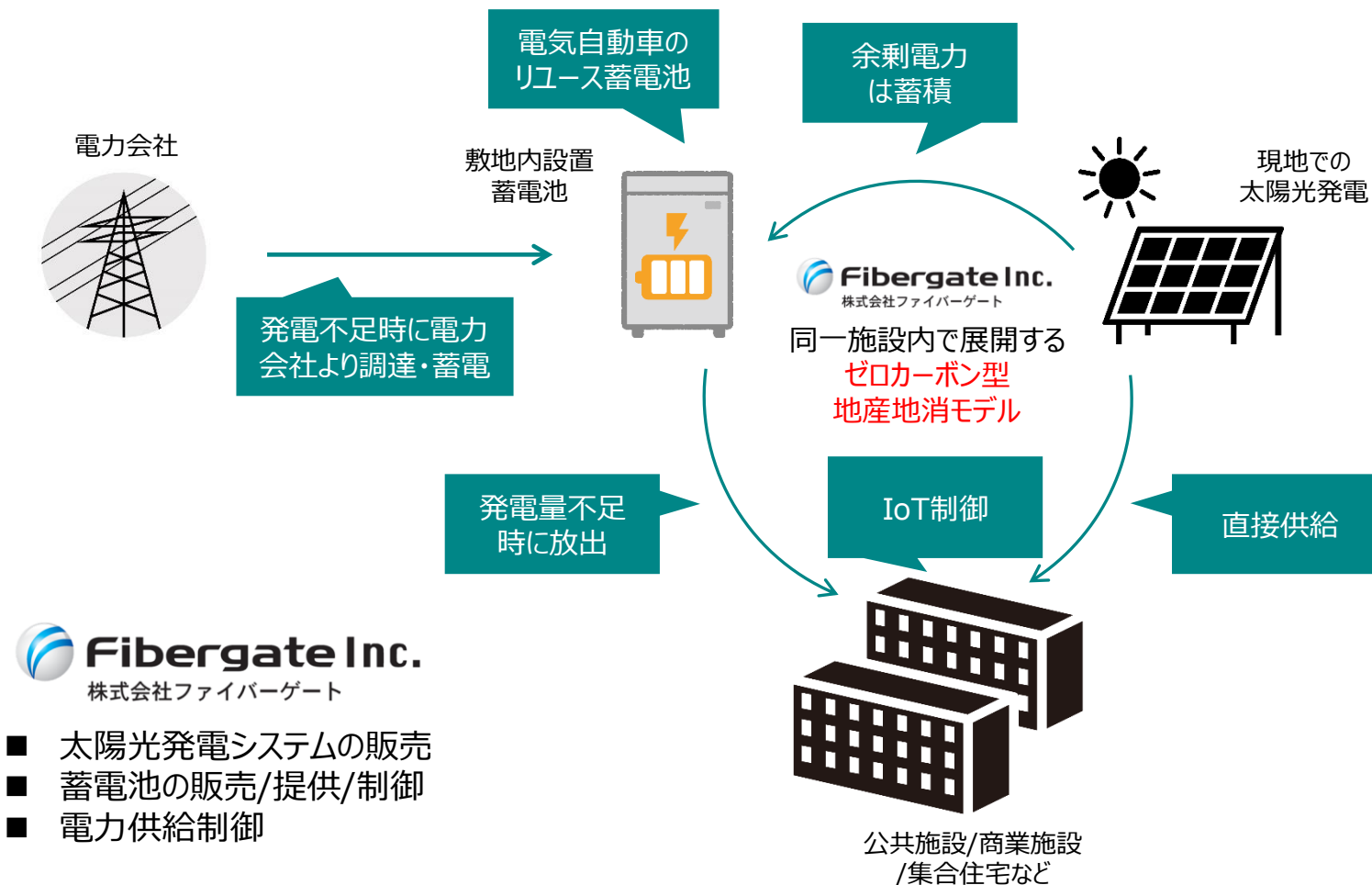


Fibergate Inc.

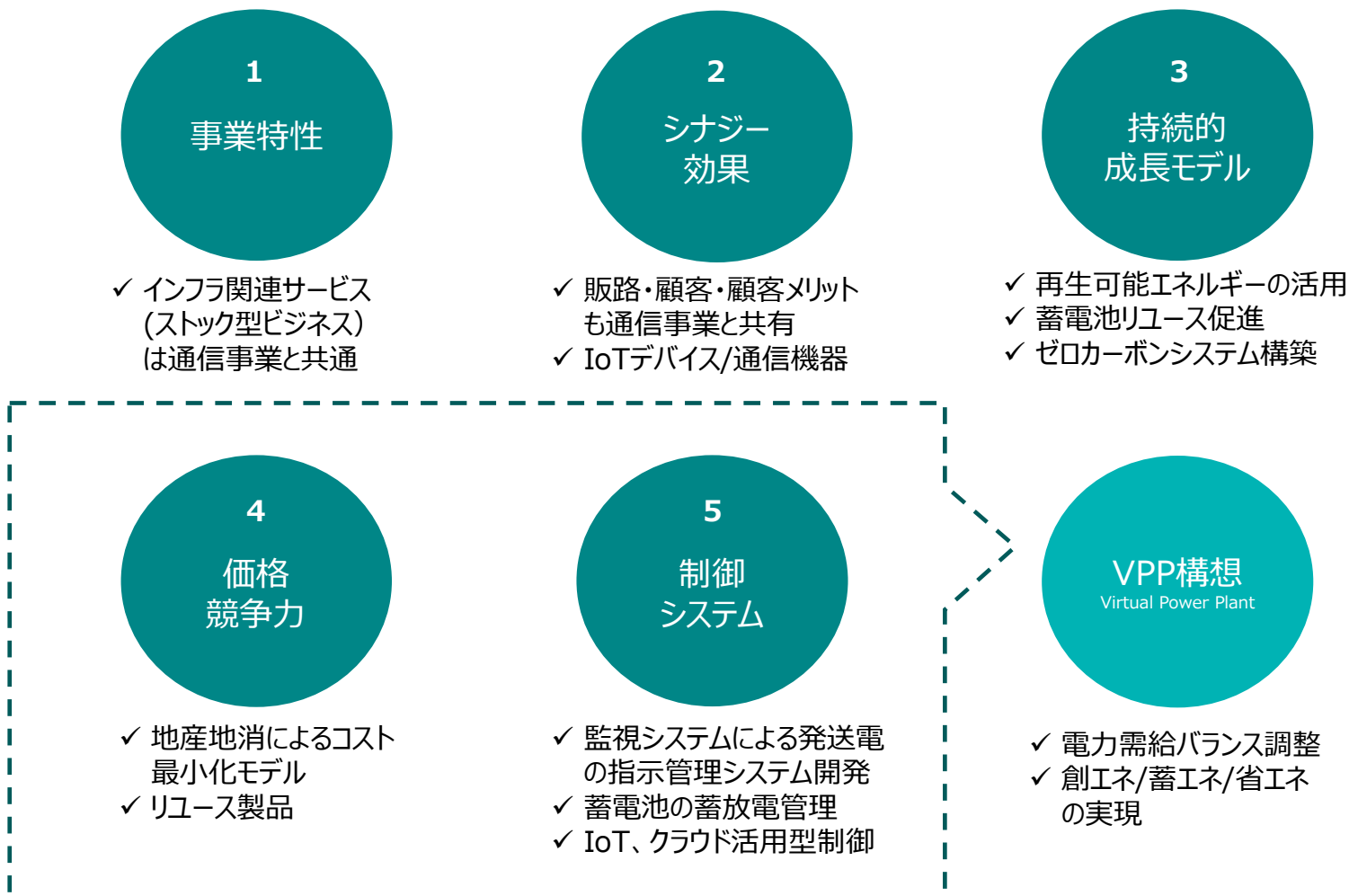
株式会社ファイバーゲート

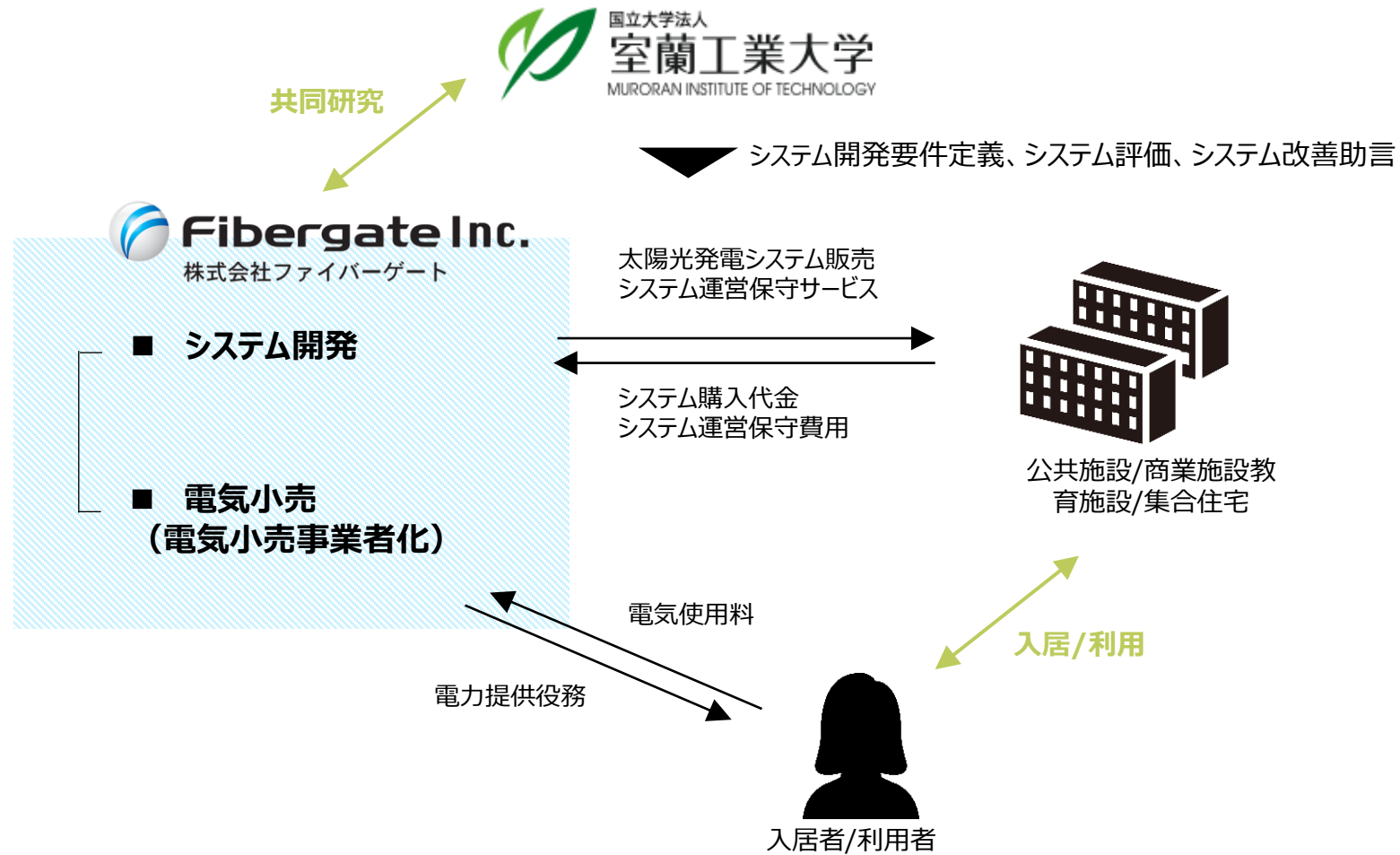
再生可能エネルギー（電力）事業参入 に関して



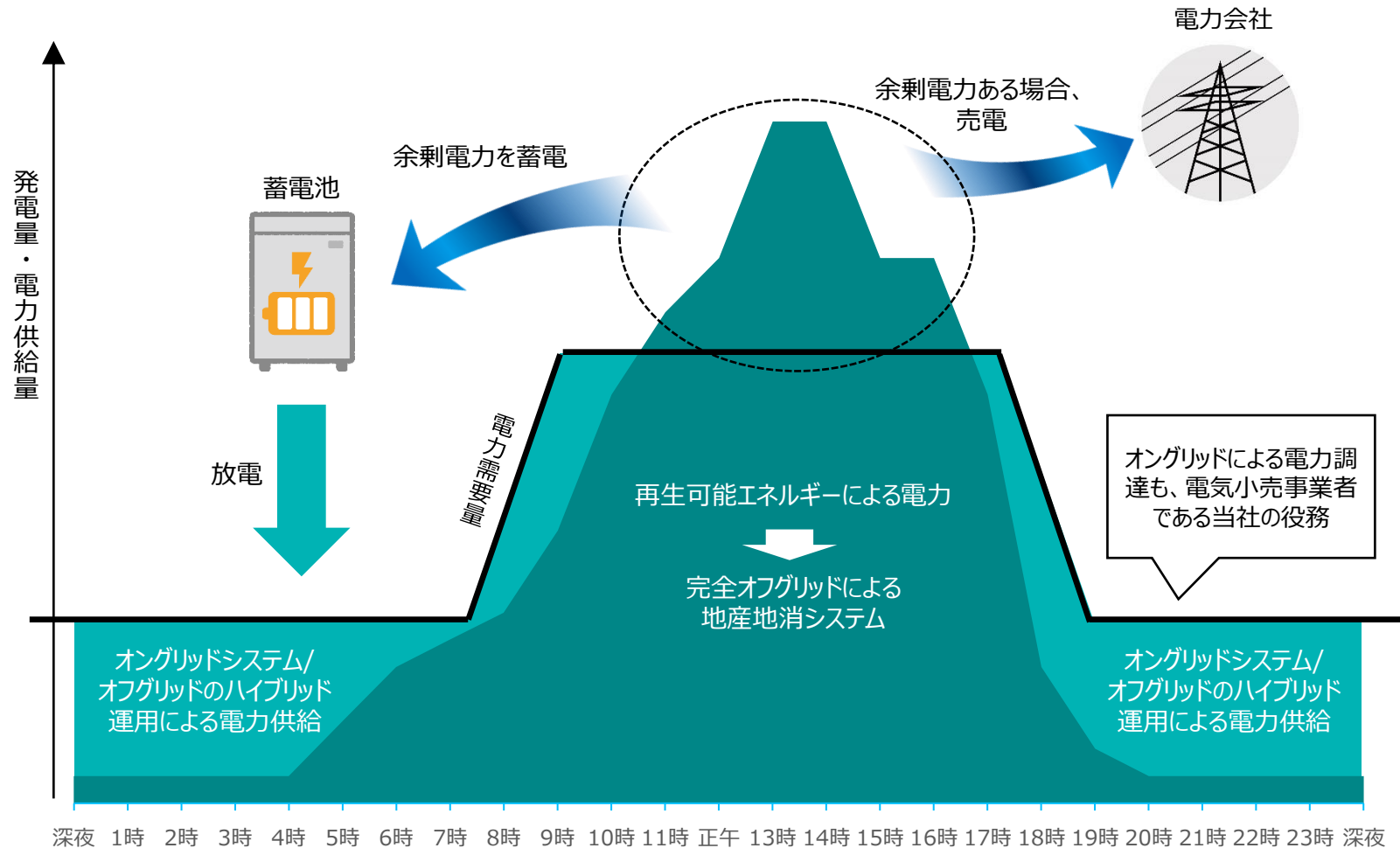


再生可能エネルギー（電力）事業 参入の5つの狙いとVPP構想





当面は、オングリッドとオフグリッドのハイブリッド運用で対応
蓄電池容量の確保に伴い、オフグリッドによる地産地消システム化を徐々に進展



STEP 1 : 2021年7月～ リユース蓄電池/制御システム開発の実証実験開始

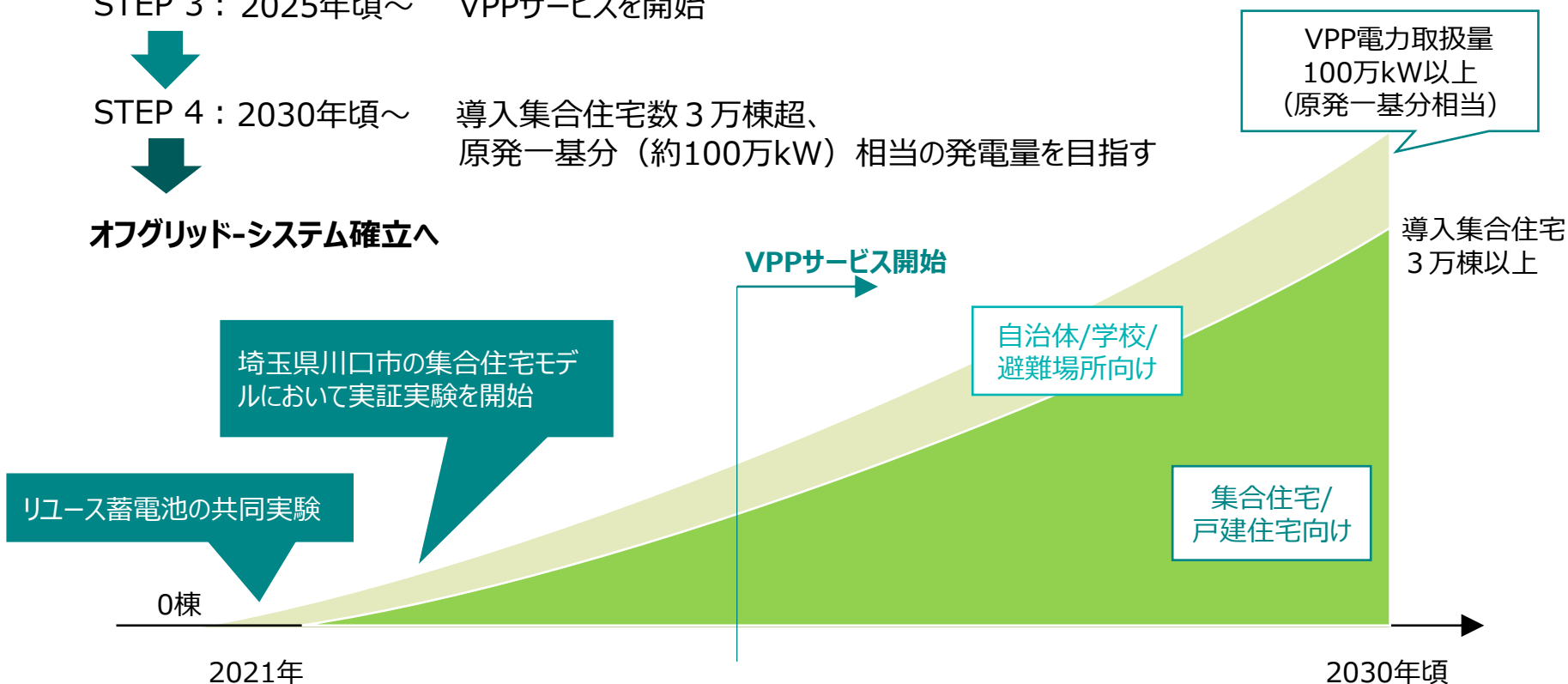
2022年1月～ 埼玉県川口市において、モデルとなる集合住宅にて実証実験開始
 実験協力/協賛企業との共同実験も検討

STEP 2 : 2023年頃～ 地方自治体庁舎、学校、広域避難場所、集合住宅などに設置を開始

STEP 3 : 2025年頃～ VPPサービスを開始

STEP 4 : 2030年頃～ 導入集合住宅数3万棟超、
 原発一基分（約100万kW）相当の発電量を目指す

オフグリッド-システム確立へ





新設100%子会社

2021年7月設立予定

本社：東京都港区芝大門
 代表：猪又將哲
 資本金：1,000万円

- ✓ 再生可能エネルギー生産システムの開発/販売/運用
- ✓ オングリッド/オフグリッドを問わず、電力小売事業をユーザーに幅広く展開
- ✓ 周辺業務に関するパートナー企業の選定とそれら企業との展開を広く模索中
- ✓ 運転資金については、新設子会社が独自に調達の手配予定*

*当社としては2本目の柱事業として期待は大きいですが、リスクを想定し、現時点ではキャッシュアウトを資本金出資支払い分に限定して対応する方針

企業はESGやSDGs等の持続可能な成長に向けての対応を迫られています。弊社グループにおいても、『社会課題解決型企業』としての役割をどのようにして持つべきかを模索してまいりました。

エネルギー事業、特に電力事業は従来より手掛けてきた通信事業と親和性が高く、この事業への参入は実は長年抱いていた構想でありました。

最近になってローコストで太陽光発電システムを開発できるのではないかと可能性を見出し、ついにスタートラインに立てることができたと感じております。

『日本も夏までに新たなエネルギー基本計画を取りまとめるが、再生エネルギーの大量導入は一筋縄ではない。洋上風力発電は導入の本格化が30年代以降と見込まれ、早期拡大が可能な太陽光発電も適地が少ない。気候変動対策を経済成長や雇用創出につなげる道筋を描けなければ産業界の理解は得られず、絵に描いた餅となりかねない。』

(2021年4月23日付日本経済新聞朝刊1面の記事より抜粋)

まさにその通りだと思う次第ですが、再生可能エネルギー事業参入は、弊社グループなりの現実解です。この国の未来の為の仕事であると考えると胸が躍ります。この仕事は次の世代、そして次の次の世代まで胸を張ってできる仕事であると確信しております。

どうか皆様のご指導を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

2021年5月14日

株式会社ファイバーゲート 代表取締役社長 猪又 将哲